

新まちづくり計画（H16～18）事業総括調書

施策体系コード	3-2-2	事業名	新たな視点による環境共生型公共建築物の整備事業
担当	都市局建築部建築企画課 多留 211-2824		
全体計画（当初）			
事業内容	公共建築物における環境問題への対応は今日重要なテーマとなっていることを踏まえ、今後の建物の整備において、新たな視点による環境共生の取り組みを進め、札幌にふさわしい建物づくりを推進する必要があります。具体化に向けては積雪寒冷地である札幌市の地域性を考慮しながら、各種手法の検討を行い可能なものから実施していきます。 【環境共生の基本要件3分類】 地球環境の保全...省エネルギー（外断熱、高気密）、自然エネルギー活用、資源有効利用（建物の長寿命化、リサイクル建材） 周辺環境との親和性...緑化拠点（屋上緑化、壁面緑化） 健康・快適性...安全性（結露防止、安全な建材）、魅力（デザイン、共用施設）		<年度別の事業内容> 【平成16年度】 長寿命、省エネルギーに有効な建築技術の検証の継続及び調査 既設公共建築物での各種工法の違いによるランニングコストの実績比較（外断熱と内断熱、ガス・電化・灯油など） 【平成17年度】 外断熱による公共建築物（既存）の検証（施設検証機器材費 500千円） 新規建設での採用に向けた工法、モデルの検討 公共建築物の検証を踏まえた、ランニングコストの検討 積雪寒冷地としての諸条件を考慮した建物の検討 施設利用者（市営住宅入居者など）へのアンケート調査及び外断熱などの各種工法の検討（委託費 2,500千円 施設管理部局と連携） 【平成18年度】 課題整理の状況に応じ段階的に実施 外断熱による公共建築物（既存）の検証（施設検証機器材費 1,000千円） 市営住宅を含む既存公共建築物の改修等における設計方針の策定（委託費 4,000千円 施設管理部局と連携）
	事業内容（量・場所・規模等）	平成16年度事業内容（決算） 長寿命、省エネルギーに有効な建築技術の検証の継続及び調査 ガラスのピラミッド雪冷房システム及び太陽光発電システム（小学校4校）データの収集分析・効果検証を実施 既設公共建築物での各種工法の違いによるランニングコストの実績比較（外断熱と内断熱、ガス・電化・灯油など） 太平百合が原地区センター（外断熱工法）と旭山公園通地区センター（内断熱工法）などの施設において、ガス暖房燃料費を比較	平成17年度事業内容（決算） 外断熱による公共建築物（既存）の検証（施設検証機器材費 200千円） 円山小学校（改築工事）にデータ検証用の温度測定検知器を設置 新規建設での採用に向けた工法、モデルの検討 公共建築物の検証を踏まえた、ランニングコストの検討 積雪寒冷地としての諸条件を考慮した建物の検討 施設利用者（市営住宅入居者など）へのアンケート調査及び外断熱などの各種工法の検討（委託費 1,800千円 施設管理部局と連携） 上記からの検討を継続して行う。なお、平成17年度は、下野幌団地建替新築工事、円山小学校改築工事及び仮称八軒中央地区センター新築工事以外断熱工法を採用
事業内容（量・場所・規模等）	平成18年度事業内容（決算） 外断熱による公共建築物（既存）の検証として内断熱工法と外断熱工法のモニター制による室内環境の分析・検証を下野幌団地で実施（1,596千円） ○自然・省エネルギーに関する市民向けパンフレットを作成し、区役所等で配布（914千円） 新規建設での外断熱の採用に向けた工法、モデルの検討 公共建築物の検証を踏まえた、ランニングコストの検討 積雪寒冷地としての諸条件を考慮した建物の検討 上記からの検討を継続して実施 平成18年度外断熱工法採用施設 ・信濃小学校、伏見中学校、公営住宅（下野幌・幌北）など9施設で採用	評価（成果） 公営住宅の内断熱・外断熱の居住性・耐久性・環境負荷などについて調査検証の結果 総合的に外断熱工法が有効であるという結果が出ています。 自然・省エネルギーに関する市民向けパンフレットを配布することで、環境問題に対する市民の意識向上を図ることができました。	
	19年度以降の方向性・事業の予定 財政等の理由により新規建設が少なくなる傾向にあるため、今後は既存の建物の改修工事等に併せた外断熱工法の採用及び検討を進めます。 屋上緑化の実施及び検証 省エネ・新エネの活用方法等の検証	課題 外断熱工法は、建物の耐久性・環境負荷などから有効な工法であるが、一方、建設時のコストが割高になることから、採用する際は施設用途など総合的に判断する必要があります。	

